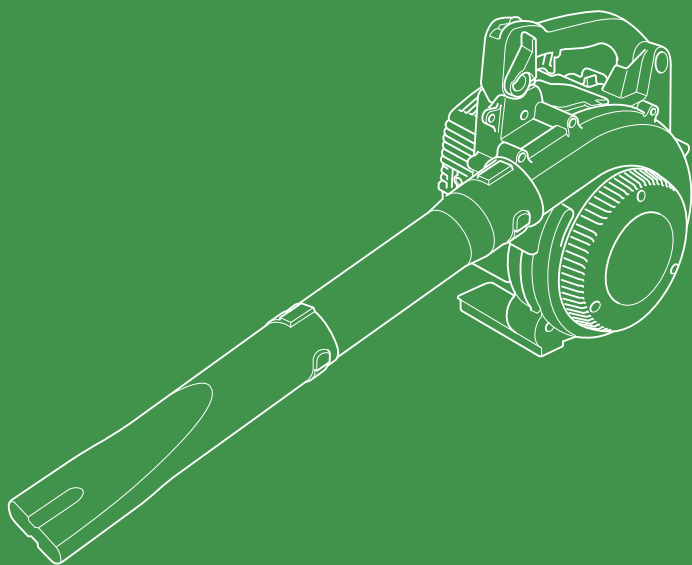


ブロワ
HHB25
取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店またはサービス店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

- ・本機を操作するときは、必ず携帯してください。
 - ・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡してください。
 - ・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはサービス店にご注文ください。
-



本製品は、(一社)日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいたブロワを安全かつ能率的に使用する手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目 次

安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう	3
安全ラベル	9
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	10
エンジンスイッチ	12
始動グリップ	12
プライミングポンプ	13
チョークレバー	13
スロットルレバー	14
クルーズレバー	14
作業前に点検しましょう	15
燃料の点検	15
エンジンオイルの点検	17
エアクリーナー（空気清浄器）の点検	19
各部の締付けの点検	20
ハンドルの点検	20
作業前の準備	21
エンジンのかけかた	22
エンジンのとめかた	25
緊急停止の場合：	25
通常停止の場合：	25
ブロワの操作	26
定期点検を行いましょ	30
定期点検整備項目	30
点検・整備のしかた	31
同梱工具	31
エンジンオイルの交換	32
エアクリーナー（空気清浄器）の点検・清掃	34
スロットルレバーの点検・調整	36
点火プラグの点検・調整・交換	38
エンジン冷却フィンの点検	40
長期間使用しないときのお手入れ	41
運搬する場合には	44
修理を依頼する前の簡単な点検	45
主要諸元	46
同梱部品の組み立てかた	47

安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- 不具合な状態や問題のある状態で作業をすると、事故の原因となります。
- この取扱説明書をしっかりとお読みください。正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。エンジンをすばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 次のような場合は本機を操作しないでください。
 - 近くに人、特に子供や動物がいる場合
 - 疲れていたり薬を服用している場合、または状況判断力が鈍っている場合
- 本機を操作中は、周囲の人や動物から十分に離れてください。
- 本機を使用中に起こった危険や事故に関しては、操作をしている方の自己責任となりますのでご注意ください。
- 屋内でのご使用はおやめください。

警告

- 本機を操作する際は、必ず作業に適した服装をし、保護メガネや、作業に適した靴などを用いて作業してください。

- 服装について

長袖、長ズボンで身体に合った作業着を着用してください。

作業着は、ボタンやファスナを確実に閉じてください。また、裾じまり、袖じまりをよくしてください。さらに、腕カバーを着用してください。

ヒモのついた服、だぶだぶの服、ネクタイ、ネックレスなどは、着用しないでください。本機に巻き込まれる原因となります。髪の毛の長い人は、髪を肩より上でまとめてください。

- 保護具について

- ・ 保護メガネ

飛散物から目を保護するため、保護メガネを着用してください。

- ・ 保護帽

頭上の木の枝や、落下物から頭を保護するため、保護帽を着用してください。

- ・ フェイスシールド

飛来物や飛散物から顔を保護するため、フェイスシールドを着用してください。

- ・ 耳覆い・耳栓

騒音から聴力を保護するため、耳覆いや耳栓などの聴力保護具を着用してください。

- ・ 防振手袋

手の保護のため、防振手袋を着用してください。

- ・ 保護長靴

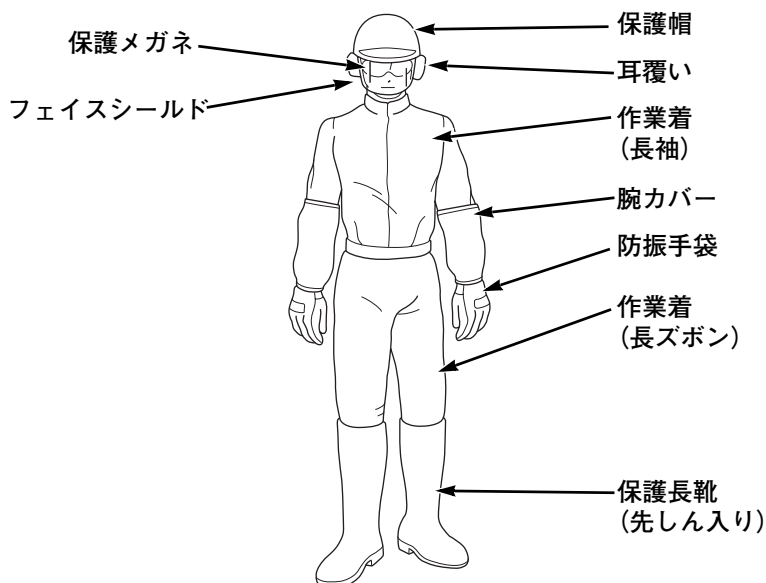
飛散物から足を保護するため、底に滑り止めのついた保護長靴（先しん入り）を着用してください。

裸足や爪先が開いているサンダルを着用しての操作はおやめください。

警告

- ・ 防塵マスク

アレルギー性鼻炎（花粉症）などの症状が出やすい人は、花粉の吸い込みを減らすため、薬局などで販売されている使い捨ての防塵マスクの着用をおすすめします。



- 作業を始める前に、本機に損傷がないこと、部品が確実に取付けられていることを確認してください。
- 作業を始める前に、エンジンの周りや下側に、ガソリンやオイルの漏れがないことを確認してください。
- 夜間や悪天候などで視界の悪いときは、作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
- 走らず、歩いて作業してください。
- 急傾斜地では本機を使用しないでください。急傾斜地は滑りやすく、転倒するおそれがあります。

警告

- ラベル類やその他の部品を外して操作しないでください。
- 誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。本機専用の部品を使用してください。
- 次のような場合は、エンジンを停止し、点火プラグキャップを抜いてください。
 - 本機の周りで他の作業をする場合
 - 本機の点検・清掃・調整を実施する場合
 - 障害物に当たった場合。損傷の原因を確認し、修理するまで本機で作業をしないでください。
 - 本機が突然異常な振動を起こしたら、直ちにエンジンを停止してください。突然の振動は、回転部の損傷や、ねじのゆるみなどの故障が考えられます。直ちに振動の原因を調べ、修理するまでエンジンをかけないでください。
- 次のようなときは、エンジンを停止してください。
 - 本機から離れるとき
 - 給油を行うとき
 - 他の人や動物が近づいてきたとき
- スロットルレバーをアイドリング状態にしても、エンジンが高速で回転し続ける場合は異常です。アイドリング回転数の調整が必要です。お買いあげ販売店にご相談ください。
- 安全な状態で作業するために、すべてのナットやボルトは確実に締めてください。日常点検、整備を行い本機を常に良好な操作状態にしておいてください。
- 損傷した部品や故障した部品を取付けて使用しないでください。異常がある部品は、交換や修理が必要です。損傷した部品や故障した部品は、本機に設定された正規の部品と交換してください。正規のものではない部品を取付けると、本機の故障や、思わぬ事故の原因となることがあります。お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

● 振動と冷えによる傷害について

ブロワを操作する人の体質によっては、指にチクチクまたはヒリヒリする痛みを感じ、さらには指先が白くなり感覚がなくなる症状が現われることがあります。これらの症状の原因は、振動と冷えに関係しているとされています。しかし何が原因でこれらの症状が現われるのかは解明されていないため、次のことをお守りください。

- ・ブロワでの1日の作業時間を制限してください。1日の作業を、ブロワを使用する作業と他の作業とを組み合わせ、機械の振動を受ける時間を減らしてください。
- ・身体を温かく保ってください。特に、手、手首、腕は温かくしてください。
- ・血行をよくするために、頻繁に休息を取り、腕を動かす運動をしてください。また、作業時間内の喫煙はおやめください。
- ・指に不快感、赤み、腫れが現われた場合や、指が白くなったり、指の感覚がなくなったりした場合には、すぐに医師の診察を受けてください。

● 反復作業による傷害について

一定の反復動作を長く続けると、反復作業による傷害を負うおそれが高くなります。傷害を負わないようにするために、次のことをお守りください。

- ・手首を曲げたまま、伸ばしたまま、ひねったままの状態で作業を続けしないでください。
- ・反復作業から受ける影響を最小限に抑えるため、定期的に休息を取ってください。また、反復作業を行うときは、ゆっくりゆとりをもって作業してください。慌てて作業しないようにしてください。
- ・指、手、手首、腕などにズキズキする痛みや、マヒを感じた場合は、医師の診察を受けてください。

● 子供の安全を守るために

- ブロワを使用しているときは、子供を近づけず、常に目を離さないようにしてください。
- 作業をしている場所に子供が入ってきたときには、エンジンスイッチを切ってください。
- 大人の監視下にあっても、子供には絶対にブロワを操作させないでください。

警告

●火災の危険性について

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発するおそれがあります。

ガソリンを取扱うときは、十分に注意してください。ガソリンは、子供の手の届かない場所で保管してください。

- 燃料は所定の燃料タンクに入れて保管するようにしてください。
- 給油作業は屋外で行ってください。燃料を補給するときや、燃料タンクの付近では、タバコを吸わないでください。
- 給油作業は、エンジンをかける前に行ってください。エンジンがかかっている状態や、エンジンが熱くなっている状態のときに、燃料タンクのキャップを外したり、燃料を補給したりしないでください。
- 燃料がこぼれた場合は、エンジンをかけようとせずに、燃料がこぼれた場所から本機を移動させてください。また、よく乾くまで、火気を近づけないようにしてください。
- 燃料タンクのキャップはすべてしっかりと締めてください。
- 燃料の補給後にエンジンを起動する場合は、燃料を補給した場所から 3 m 以上離れてください。
- 本機の燃料タンクに燃料が入った状態で屋内に保管しないでください。
- 布などで覆って保管する前にはエンジンを冷ましてください。
- 火災の危険を防ぐために、本機、特にエンジンやマフラー、燃料タンクの周りに草や木、グリースを付着したままにしないでください。
- 燃料タンク内の燃料を抜く必要がある場合には、屋外でエンジンが冷めた状態で行ってください。

●一酸化炭素中毒の危険性について

排気ガスには、有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素は無色で無臭のガスです。排気ガスを吸うと、意識がなくなり、死に至る危険があります。

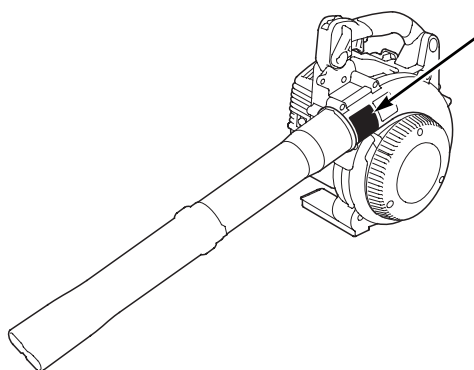
- 屋内や換気の悪い場所でエンジンをかけると、危険な量の排気ガスを吸い込む可能性があります。
- 故障したマフラーは交換してください。
- 屋内でエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素が室内にたまってしまうおそれがあります。

安全ラベル

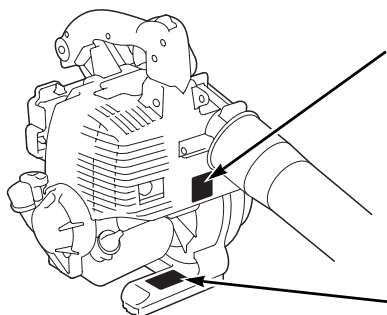
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげいただいた販売店にご注文ください。

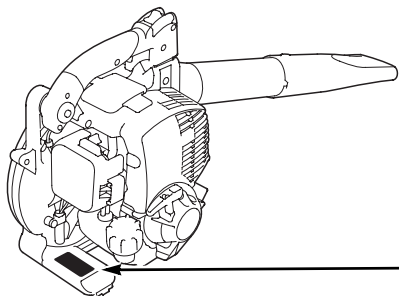


⚠ 警告	
	飛散物によりケガをするおそれがあるので、人や動物を近づけないこと。
	傷害事故防止のため、保護具を必ず着用すること。
⚠ 注意	
	傷害事故防止のため、運転前に取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。



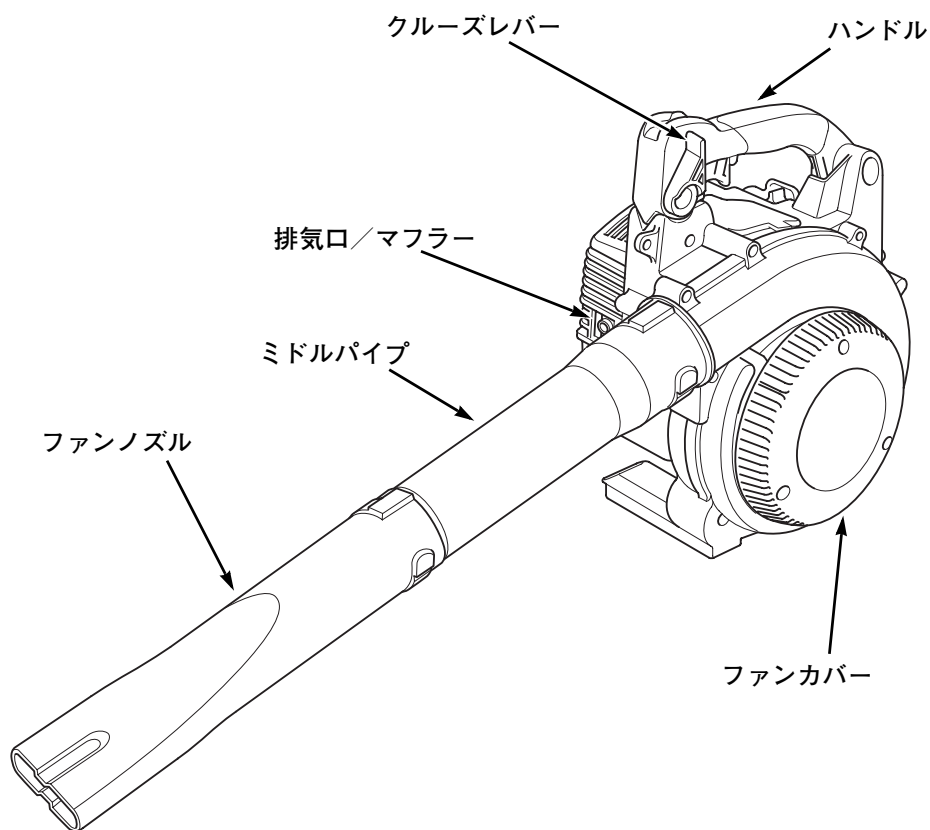
⚠ 注意	
	ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

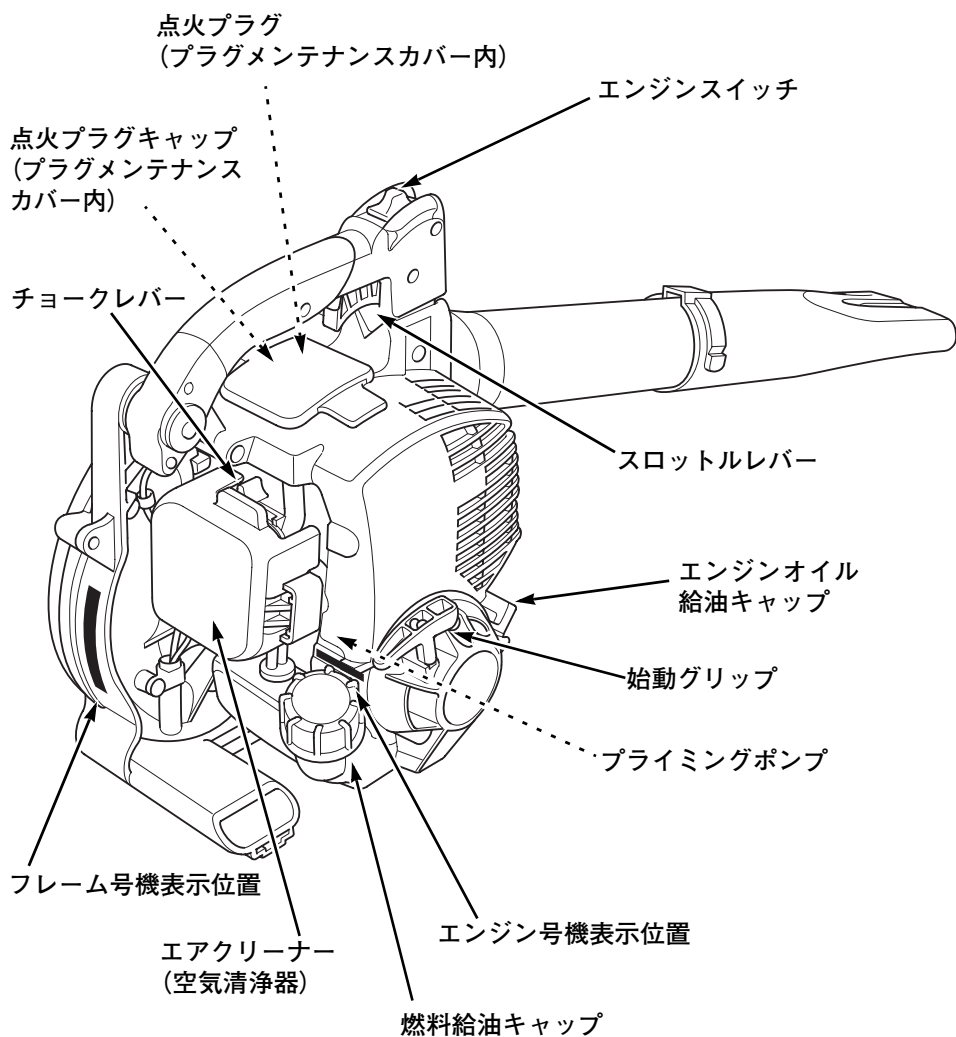
⚠ 警告	
	排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。



⚠ 警告	
	火災や爆発により死傷するおそれがあるので、 ● 給油時にはエンジンを停止すること。 ● 給油口に火を近づけないこと。
火気 厳禁	

各部の名称と取扱いをおぼえましょう



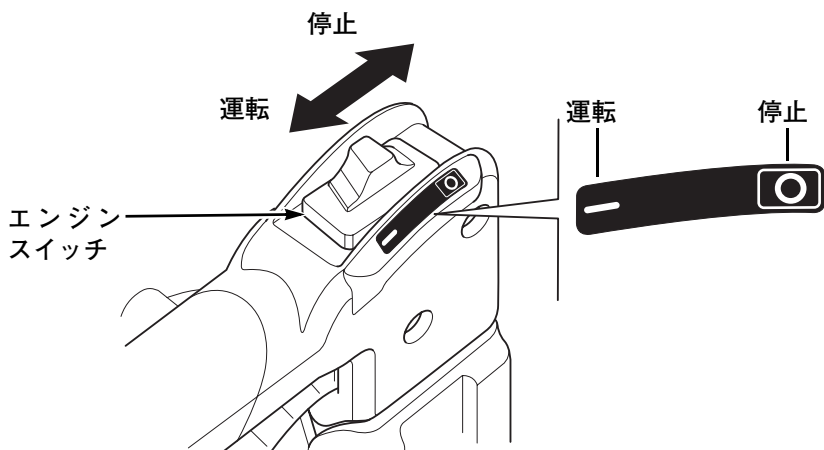


エンジンスイッチ

エンジンを始動、停止させるときに操作します。

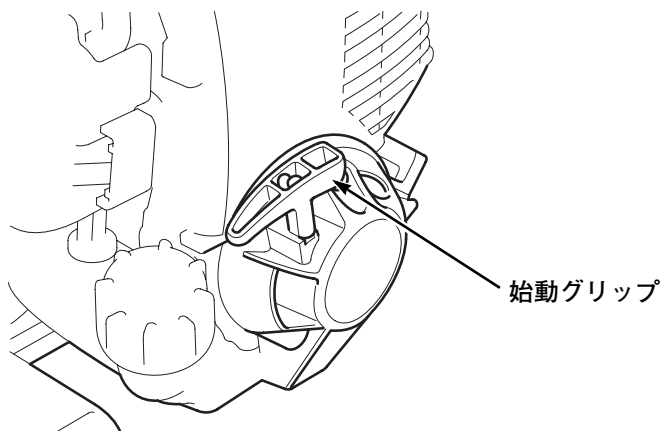
エンジンをかけて送風を開始するときは、エンジンスイッチを “ 運転 ” に合わせます。

送風を終了してエンジンを停止するときは、エンジンスイッチを “ 停止 ” に合わせます。



始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



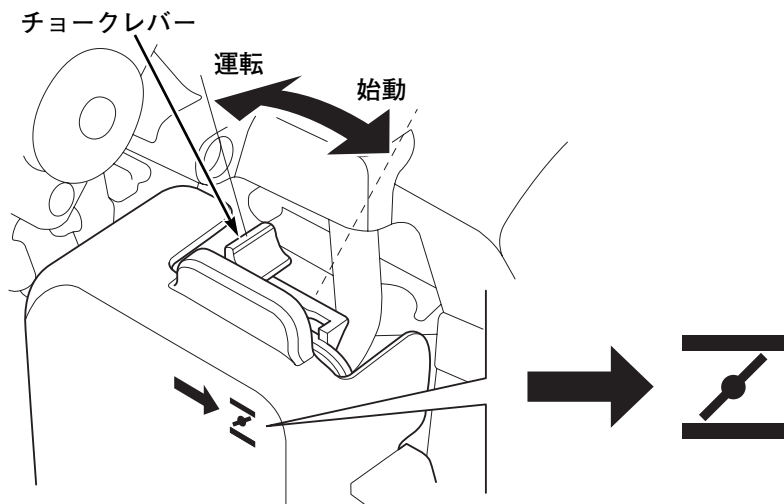
プライミングポンプ

エンジンを始動するときに操作します。数回押すことによって、キャブレーター内に燃料を送り込みます。燃料戻しチューブ（透明なチューブ）内に燃料の流れが確認できれば、キャブレーター内に適量の燃料が蓄えられています。



チョークレバー

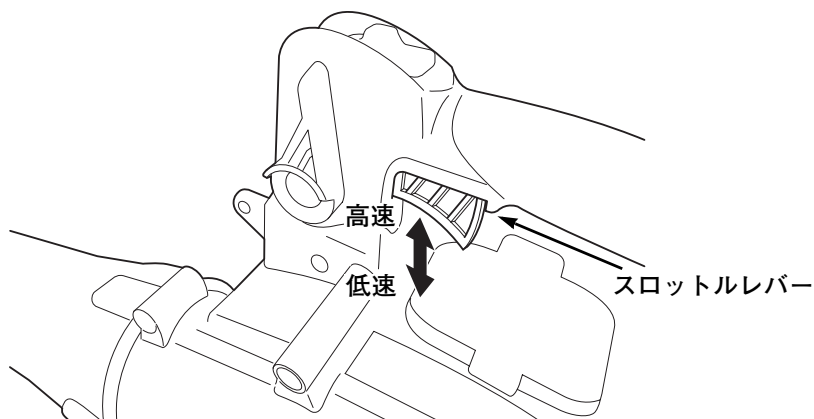
始動時にエンジンが冷えている場合は、チョークレバーを“始動”の位置に合わせます。



スロットルレバー

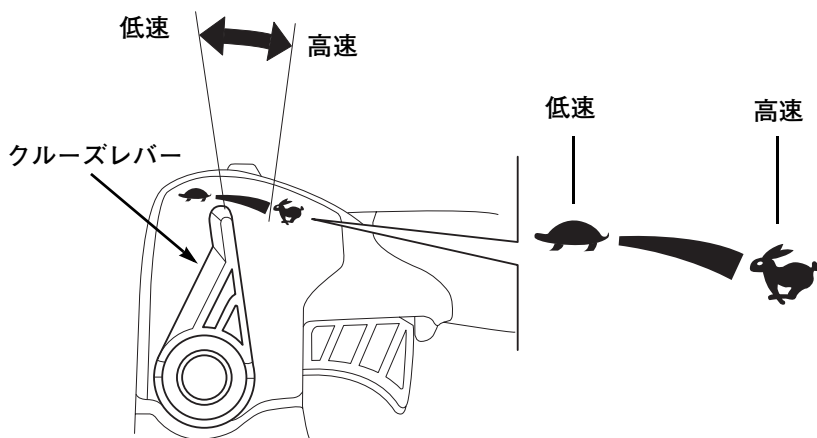
エンジンの回転速度を調整します。

エンジンの回転速度によって、送風量が変化します。



クルーズレバー

エンジンがかかっている状態でクルーズレバーを“高速”の位置に合わせると、エンジンの回転速度を高速の状態で維持できます。クルーズレバーを“低速”の位置に合わせると、スロットルレバーでエンジンの回転速度を調整できます。



作業前に点検しましょう

安全のため、また効率よく作業を行うために、エンジンをかける前に必ず点検を行うようにしてください。

⚠ 警告

点検は平坦な場所に本機を水平に置いて、エンジンを停止した状態で行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグから点火プラグキャップを取外した状態で行ってください。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

燃料の点検

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- ・ エンジンを停止してください。
- ・ 換気の良い場所で行ってください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。
- ・ ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- ・ ガソリンは注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

1. 燃料タンクを水平にして、燃料タンクの外側から液面の位置を目視で確認します。

2. 燃料が少ない場合は、給油限界位置を超えないように燃料を補給します。燃料給油キャップを少しずつゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差を取り除いてください。燃料給油キャップを勢いよく取外すと、燃料タンク内の燃料が吹きこぼれることがあります。

- 使用燃料
無鉛レギュラーガソリン



取扱いのポイント

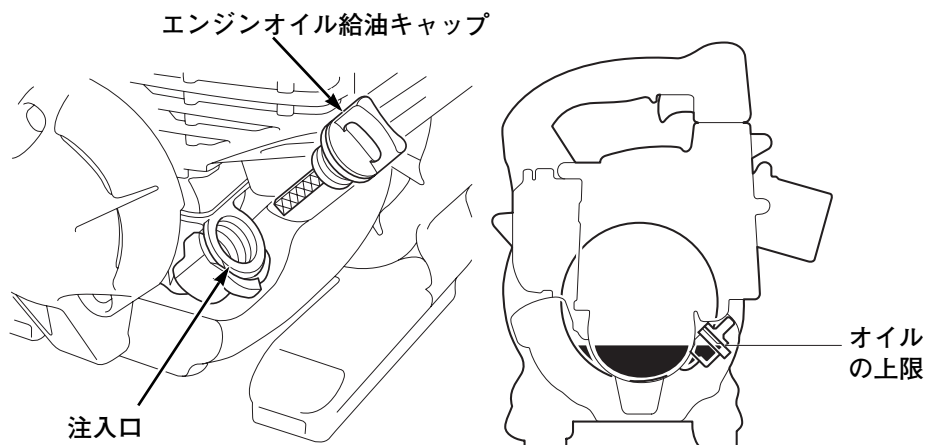
- ・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- ・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。
- ・ガソリンは自然劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。

エンジンオイルの点検

⚠ 注意

エンジンオイルの量が少ないままエンジンをかけると、エンジンが故障するおそれがあります。

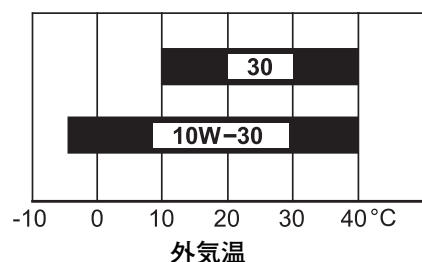
1. 本機を平坦な場所に置き、エンジンオイル給油キャップを外します。
2. エンジンオイルに汚れや変色がないことを確認します。
オイルが汚れたり、変色したりしている場合は、交換してください。
(32 頁参照)
3. エンジンオイルがオイル注入口の口元まで入っていることを確認します。
オイルが少ない場合は、新しいオイルをオイル注入口の口元まで補給します。
4. エンジンオイル給油キャップを取付けます。



エンジンを 10 時間以上連続してかける場合は、作業前に必ずエンジンオイルの量を確認し、注入口の口元までオイルを補給してください。

- ・ 推奨オイル
Honda 純正ウルトラ U 汎用 (SAE 10W-30)
または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。
- ・ エンジンオイル量
0.08 L

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

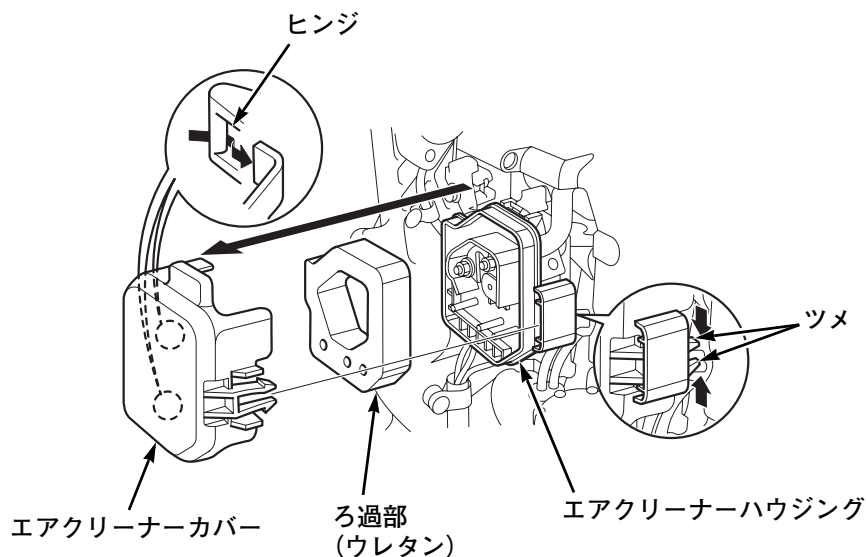


エアクリナー（空気清浄器）の点検

⚠ 注意

- ・エアクリナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・エアクリナーカバーやろ過部を装着しなかったり、取付けかたが悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

1. チョークレバーを“始動”の位置に合わせます。
2. エアクリナーカバーのツメを押して、エアクリナーカバーを開きます。
3. ヒンジを回転軸として、エアクリナーカバーを回し、エアクリナーハウジングからカバーを取外します。
4. エアクリナーハウジングから、ろ過部（ウレタン）を取外します。
5. ろ過部（ウレタン）の汚れを確認します。
汚れがひどい場合は、清掃するか、新しいものに交換します。（35 頁参照）
6. ろ過部（ウレタン）をエアクリナーハウジングに取付けます。
7. エアクリナーカバーをエアクリナーハウジングに取付けます。

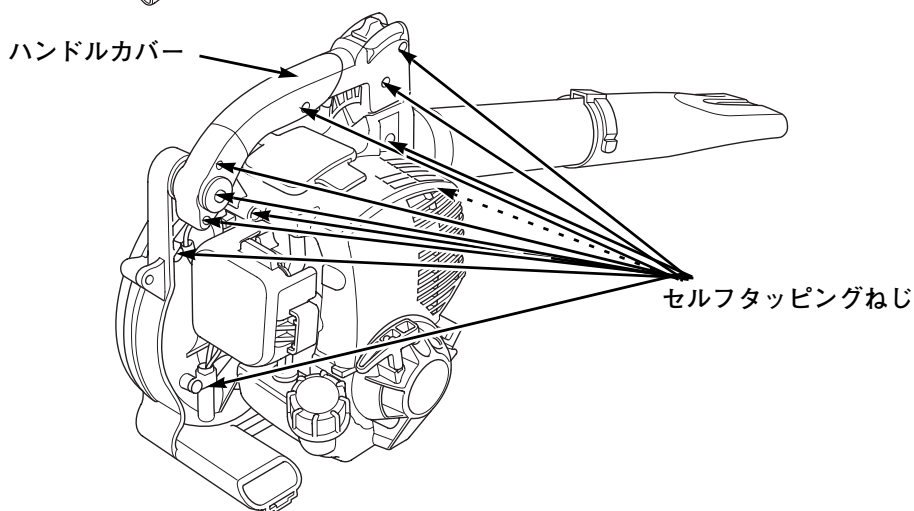
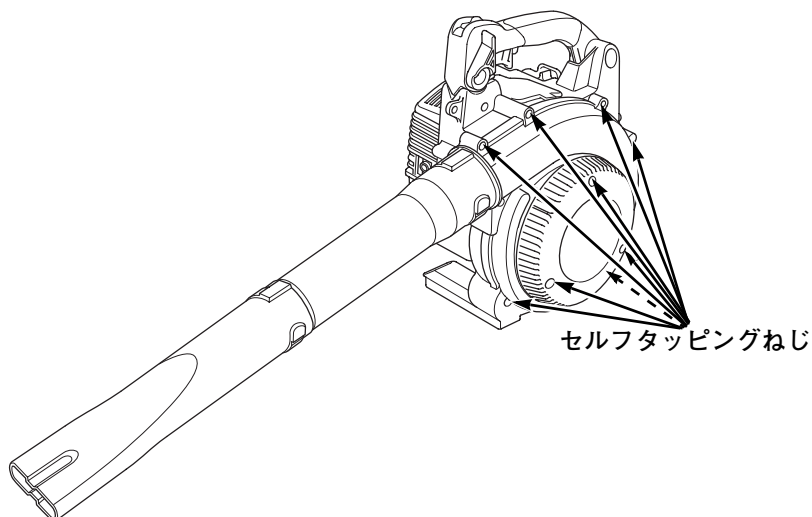


各部の締付けの点検

セルフタッピングねじがゆるんでいないことを確認します。
ねじがゆるんでいる場合は、確実に締めてください。

ハンドルの点検

1. ハンドルのセルフタッピングねじがゆるんでいないことを確認します。
ねじがゆるんでいる場合は、確実に締めてください。
2. ハンドルカバーに傷がないことを確認します。
ハンドルカバーに傷がある場合は、新しいものに交換してください。お買いあげいただいた販売店にご相談ください。



作業前の準備

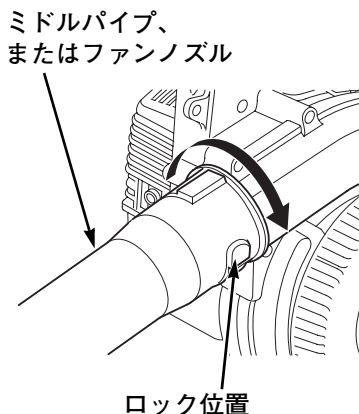
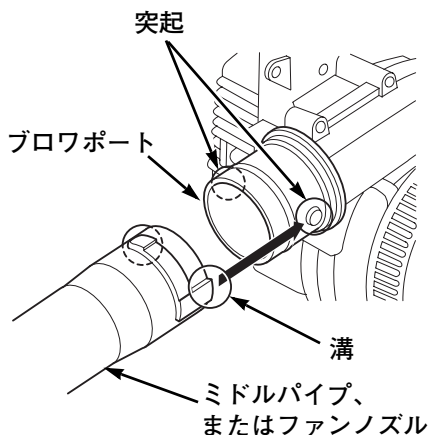
ミドルパイプまたはファンノズルの取付けかた

1. 本体のブロワポートの突起をミドルパイプ、またはファンノズルの溝に合わせ、差し込みます。
2. ミドルパイプ、またはファンノズルをロックがかかるまで矢印の方向へ回します。
3. ミドルパイプ、またはファンノズルがゆるんでいないこと、正しい位置でロックされていることを確認します。

取扱いのポイント

ミドルパイプ、またはファンノズルがゆるんでいないこと、正しい位置でロックされていることを必ず確認してください。

ミドルパイプ、またはファンノズルがゆるんでいる状態では、本機を使用しないでください。ミドルパイプまたはファンノズルが破損していると、ケガをしたり、他の部品が破損したりする可能性があります。



ミドルパイプまたはファンノズルの取外しかた

ミドルパイプ、またはファンノズルを、取付けと逆の方向へ回します。

⚠ 注意

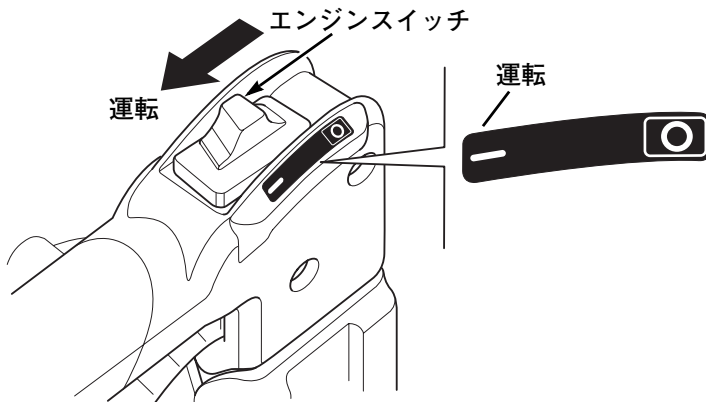
ブロワからミドルパイプとファンノズルを取外した状態で、エンジンをかけないでください。エンジンの回転数が減少し、エンジンが故障する可能性があります。

エンジンのかけかた

⚠ 警告

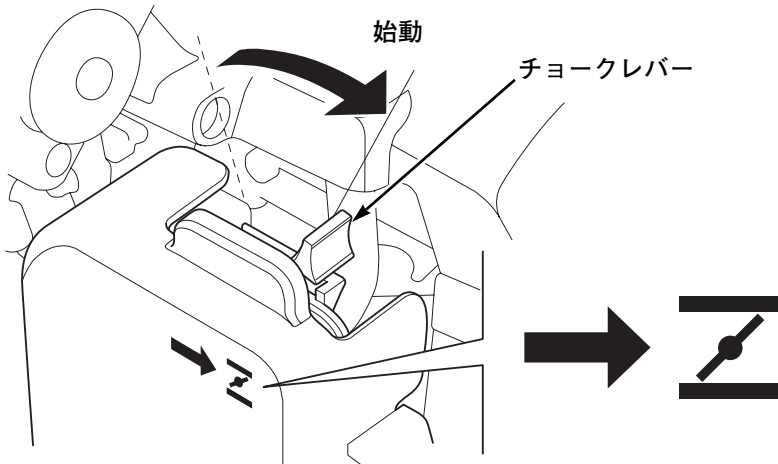
- ・屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- ・周囲の人や動物、建物から十分離れた場所でエンジンをかけてください。作業する場所に、障害物がないことを確認してください。

1. エンジンスイッチを “運転” の位置に合わせます。



2. エンジンが冷えているときは、チョークレバーを “始動” の位置に合わせます。

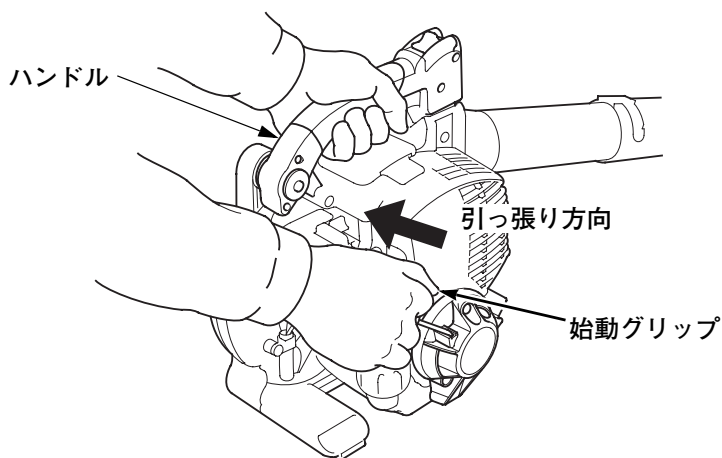
エンジンが暖まった状態で再びエンジンをかけるときは、チョークレバーは “運転” の位置にしてください。



3. 燃料戻しチューブ（透明なチューブ）内に燃料の流れが確認できるまで、プライミングポンプを数回押します。



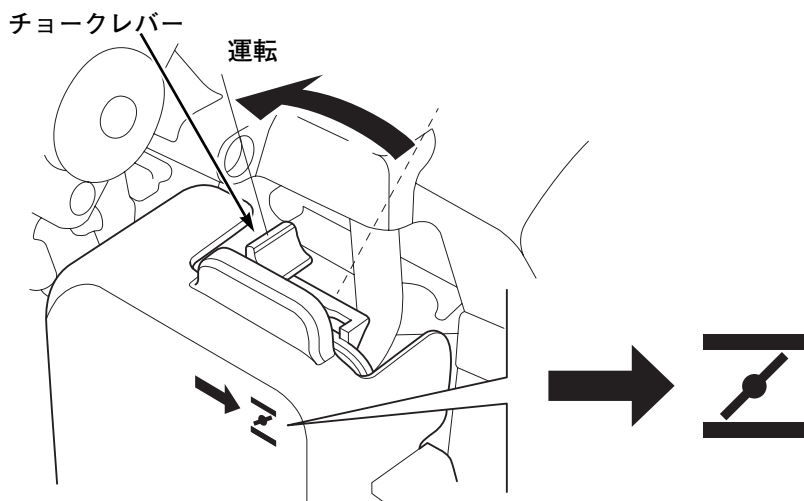
4. ハンドルを持って本機をしっかりと固定します。
5. 始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。
6. 矢印の方向に、始動グリップを勢いよく引っ張ります。
エンジンがかかります。
7. 始動グリップに手を添えたまま、ゆっくりと元に戻します。



⚠ 注意

- ・ 始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。グリップや周りの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。
- ・ エンジンをかける前に、本機を平坦な場所に置いてください。
- ・ 始動グリップを引く前に、周囲の人や動物から十分に離れていることを確認してください。特に、後方の状況には注意してください。

8. チョークレバーが “ 始動 ” の位置にある状態でエンジンを始動した場合は、エンジンの回転が安定したら、徐々にチョークレバーを “ 運転 ” の位置に動かします。



エンジンがかかりにくいときは

運転後、エンジンを止めてしばらくたった後に再始動しようとする、燃焼室内の混合気が濃くなり、エンジンがかかりにくくなる場合があります。

次の操作を行って、濃い混合気を排出してください。

⚠ 注意

必ずエンジンスイッチを “ 停止 ” の位置に合わせてください。 “ 運転 ” の位置で操作すると、エンジンが始動する可能性があります。エンジンが始動した場合、ケガをするおそれがあります。

1. エンジンスイッチを “ 停止 ” の位置に合わせます。
2. チョークレバーを “ 運転 ” の位置に合わせます。
3. スロットルレバーを “ 高速 ” の位置まで握った状態を維持します。
4. 始動グリップを 3 ～ 5 回引きます。
5. チョークレバーを “ 運転 ” の位置に合わせた状態で、「エンジンのかけかた」に従ってエンジンをかけます。(22 頁参照)

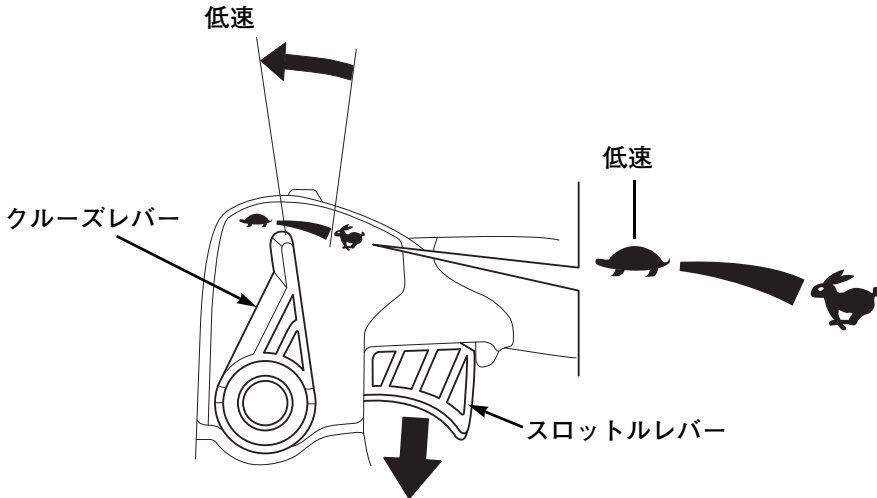
エンジンのとめかた

緊急停止の場合：

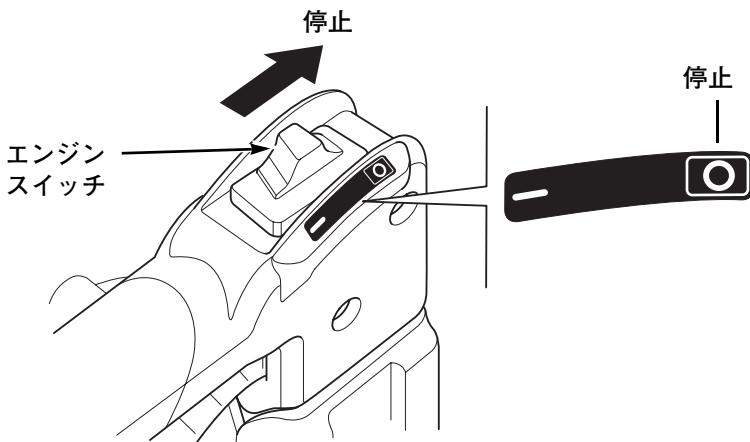
エンジンスイッチを “停止” にします。

通常停止の場合：

1. スロットルレバーを放し、クルーズレバーを “低速” の位置に合わせます。



2. エンジンスイッチを “停止” の位置に合わせます。



ブロワの操作

3～8頁の安全に関する注意事項をよく読み、ご理解の上で、ブロワを操作してください。

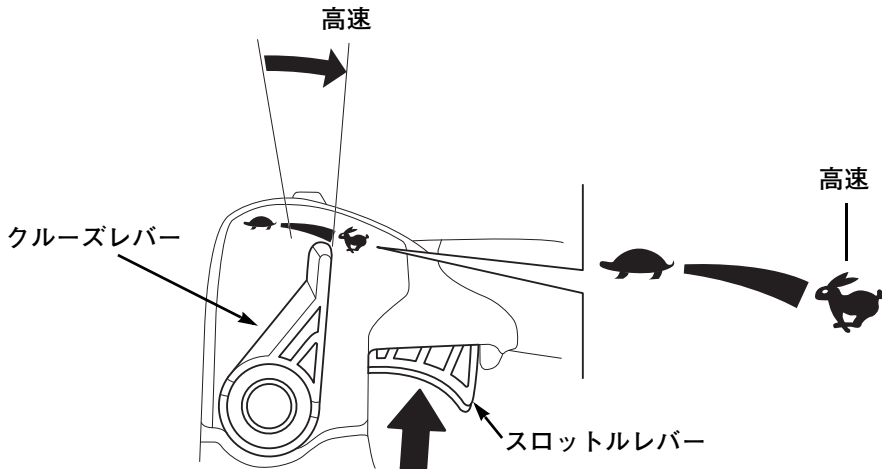
⚠ 警告

回転部との接触によってケガを負う危険を回避するために、エンジンを停止してから、部品の取付けや取外しを行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら、直ちにエンジンを停止し、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

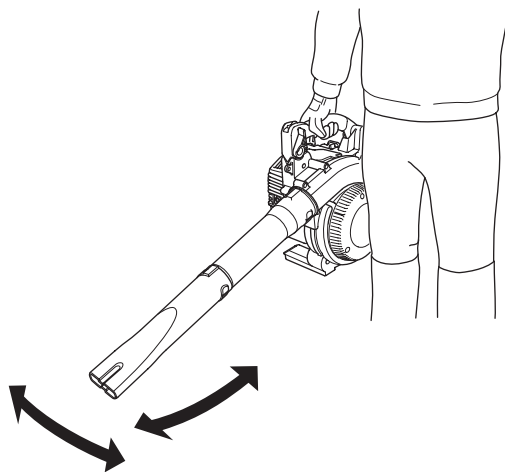
1. 「エンジンのかけかた」に従ってエンジンをかけます。(22頁参照)
2. エンジンがかかっている間にスロットルレバーを引き、送風量を調整します。高速で固定したい場合は、クルーズレバーを“高速”の位置に合わせます。



⚠ 注意

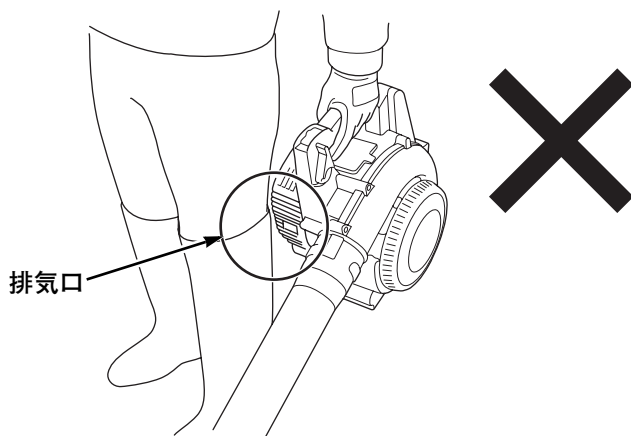
エンジンの回転に異常がある場合は、お買いあげいただいた販売店に相談の上、点検・修理を受けてください。

3. 右手、または左手でしっかりとブロワを持ちます。
4. ブロワを前後左右に動かして、枯葉などを吹き飛ばし、1 か所に集めます。

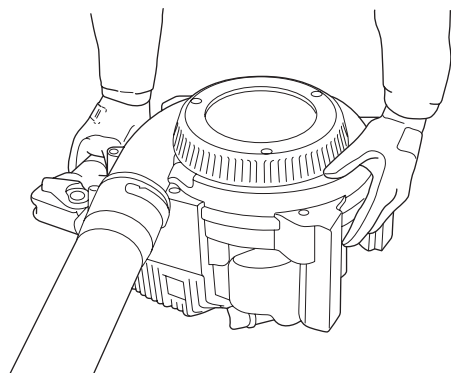


⚠ 注意

左手でブロワを操作する場合は、排気口が身体に近い、または接している状態で持たないようにしてください。排気口から排出される熱風でヤケドを負う可能性があります。



- 本製品は片手で操作できるようにデザインされています。また、片手でハンドルを握り、もう片方の手でエンジンの下部を支えることで、両手でも操作できます。



取扱いのポイント

本機から離れる場合は、スロットルレバーを放し、クルーズレバーを“低速”の位置に合わせてから、エンジンスイッチを“停止”の位置に合わせてください。

ブロワでの清掃作業

効率よくブロワを使用するために：

作業時間を最小限に抑えるために、収集する物が広範囲にわたって広がっている場合は、あらかじめ熊手やほうきで集めておいてください。

収集する物が何重にも積み重なっている場合は、あらかじめ熊手やほうきで薄く均しておいてください。

収集物の飛散とそれによる汚れを最小限に抑えるために：

- 収集する物がひどくほこりっぽい場合は、あらかじめ表面のほこりを少し取り除いておくか、表面を湿らせておいてください。
- 十分に気流が行き渡るように、ファンノズルを伸ばして、地面にできるだけ近づけてください。
- 周囲の人やものなどに飛散物が当たらないように、飛散物には十分に注意してください。
- 作業が完了したら、作業した場所の清掃をしてください。

定期点検を行いましょ

定期点検整備項目

お買いあげいただきましたブロワをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を受けましょう。

点検時期 (5)		作業前 点検	1 か月目 または 初回 10 時 間運転目	3 か月毎 または 25 時間 運転毎	6 か月毎 または 50 時間 運転毎	1 年毎 または 100 時間 運転毎	2 年毎 または 300 時間 運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検	○						17
	交換		○		○			32
エアクリーナー	点検	○						19
	清掃			○ (1)				34
冷却フィン	点検、清掃				○			40
本機周りの点検		○						—
スロットルレバーの 作動	点検	○						36
各部の締付け	点検	○						20
配線、ケーブル類 の点検		○						—
エンジンの作動	点検	○						—
燃焼室	清掃	300 時間運転毎 (2) (3)						
点火プラグ	清掃、調整					○		38
	交換						○	38
エンジン回転調整 ケーブル	調整					○		—
吸入、排気弁のす き間	点検、調整					○ (3)		—
燃料タンク、燃料 フィルター	清掃					○ (3)		—
燃料チューブ、プ ライミングポンプ	点検	○ (4)	2 年毎 (必要なら交換) (3)					—
オイルチューブ	点検		2 年毎 (必要なら交換) (3)					—

- (1) ほこりの多い作業のときは 10 時間毎または 1 日 1 回清掃してください。
- (2) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。
- (3) これらの項目は、適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
- (4) 異常 (亀裂、ひび割れ等) がある場合は交換してください。交換の際は、適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
- (5) 点検時期は表示時間の期間毎または運転時間毎のどちらか早いほうで実施してください。

点検・整備のしかた

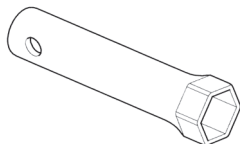
⚠ 警告

点検は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを“停止”の位置にし、点火プラグキャップを取外して行ってください。

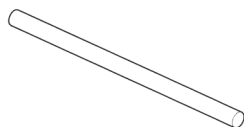
同梱工具

本機には工具が同梱されています。点検・整備の際は、同梱工具を使用してください。

誤った工具を使用すると、本機を損傷させることがあります。



点火プラグレンチ



レンチハンドル

エンジンオイルの交換

⚠ 注意

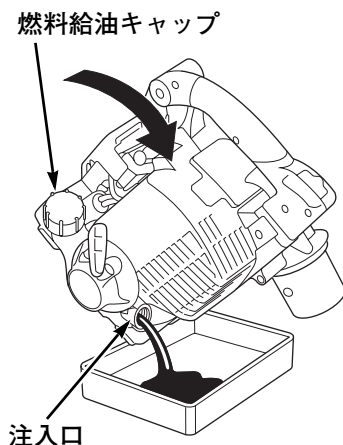
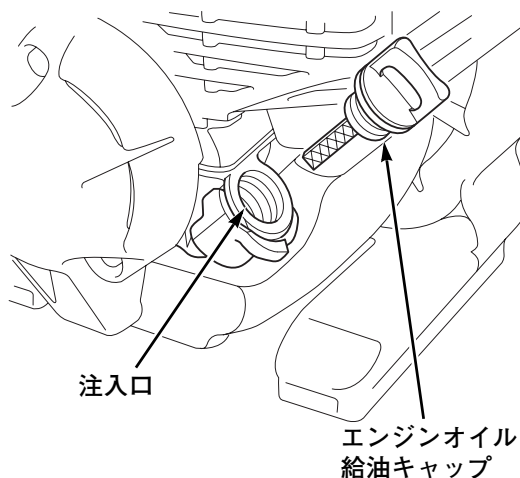
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーの温度、油温が非常に高くなっています。また、エンジン停止後しばらくの間は、熱い状態が続きます。ヤケドをするおそれがありますので、十分に冷えてからオイルの交換を行ってください。

《推奨オイル》 18 頁参照

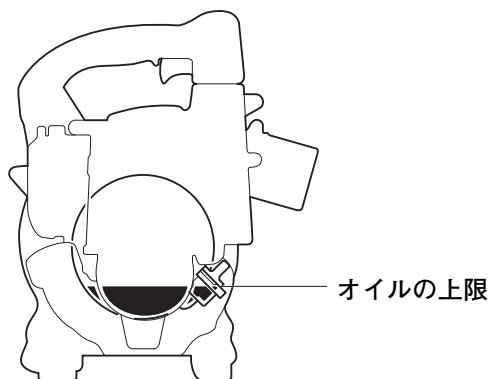
《規定量》 0.08 L

《交換》

1. エンジンが確実に停止していることを確認してから、点火プラグキャップを取外します。
2. 燃料給油キャップがしっかり締まっていることを確認します。
3. エンジンオイル給油キャップを取外し、本機を注入口側に傾け、オイルを抜きます。



4. エンジンオイルの量を確認しながら、新しいエンジンオイルを注入します。(18 頁参照)
5. エンジンオイル給油キャップをしっかりと締めます。



取扱いのポイント

- ・ オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- ・ 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげいただいた販売店にご相談の上、処理してください。
- ・ エンジンオイルの補給はオイル容量が少ないため、少量に分けて注入してください。
- ・ オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

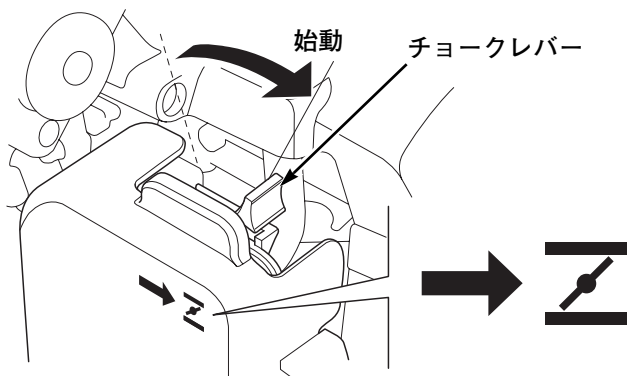
エアクリーナー（空気清浄器）の点検・清掃

エアクリーナーが汚れていると、キャブレターへの空気の流れが制限されてしまいます。キャブレターの故障を防止するため、エアクリーナーは定期的に点検してください。特にほこりが多いところで作業した場合は、より頻繁な点検が必要になります。

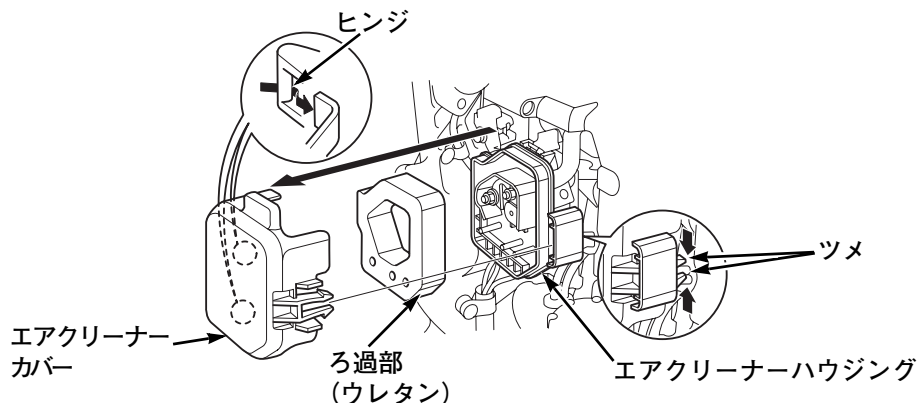
⚠ 警告

ろ過部の清掃には、ガソリンや引火点が高い溶媒を使用しないでください。発火したり爆発を起こす可能性があります。

1. チョークレバーを “ 始動 ” の位置に合わせます。



2. エアクリーナーカバーのツメを押して、エアクリーナーカバーを開きます。
3. エアクリーナーカバーのヒンジを外します。
4. エアクリーナーハウジングから、ろ過部（ウレタン）を取外します。
5. ろ過部（ウレタン）の汚れを確認します。
ろ過部（ウレタン）がひどく汚れている場合は、新しいものに交換してください。



6. ろ過部（ウレタン）の清掃

ろ過部（ウレタン）を洗浄・乾燥・含油して固くしぼります。

・ろ過部（ウレタン）は、ねじるようにしてしぼらないでください。

・エンジンオイル：ウルトラ U 汎用 SAE 10W-30

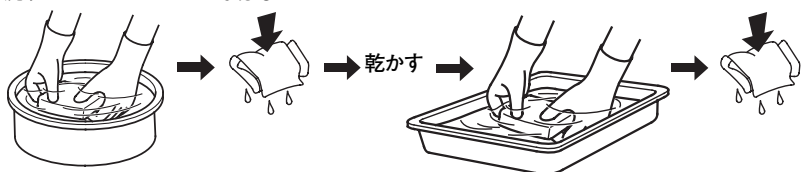
（または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイル）

「洗剤油」または
「水で薄めた中性洗剤」
で洗う

布で包み押し
つぶすように
しぼる

新しいエンジン
オイルに浸す

布で包み押し
つぶすように
しぼる

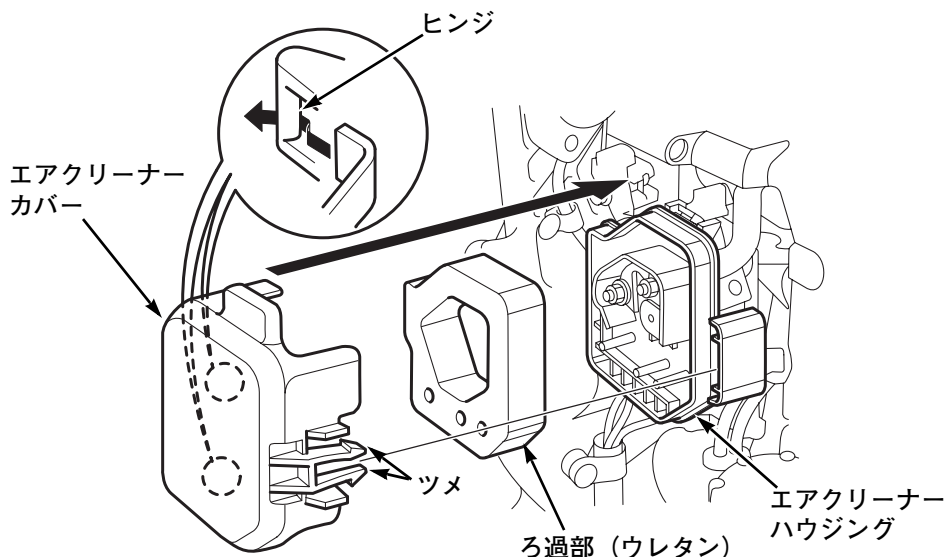


⚠ 注意

- ・エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・エアクリーナーカバーやろ過部を装着しなかったり、取付けかたが悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

7. エアクリーナーカバーの内側と、エアクリーナーハウジングの汚れを湿らせた布でふき取ります。

8. ろ過部（ウレタン）とエアクリーナーカバーを確実に取付けます。

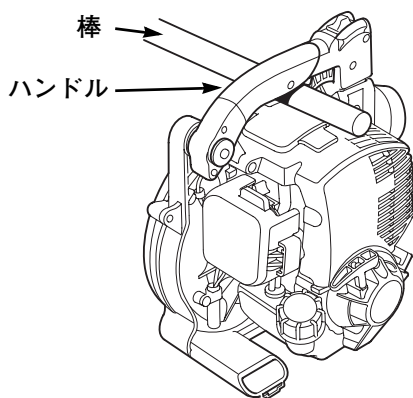


スロットルレバーの点検・調整

スロットルレバーの遊び（戻り量）を点検し、必要に応じて調整します。

<調整>

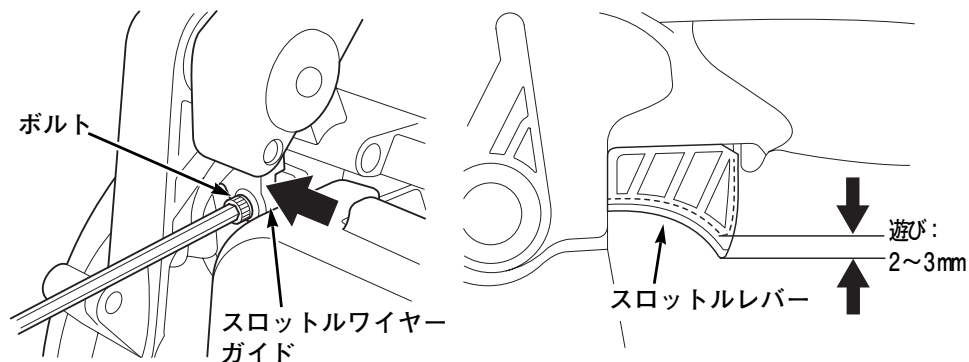
1. ハンドルの下に棒、または棒に相当するものを通します。通した棒を持ち上げて、ブロワを地面から浮かせます。



取扱いのポイント

ブロワのハンドルは、防振構造になっています。ハンドルを持ち上げて、スロットルレバーの遊びを調整してください。スロットルレバーの遊びが少ないと、ハンドルを手で持ち上げたときに、エンジンの回転数が上がる可能性があります。

2. スロットルワイヤーガイドのボルトをゆるめます。
スロットルワイヤーガイドを操作して、スロットルレバーの遊びを調整してください。矢印の方向にスロットルワイヤーガイドを押すと遊びが減り、反対の方向に引くと遊びが増えます。遊びは、スロットルレバーの先端で2～3mmになるように調整してください。



取扱いのポイント

ボールポイント六角レンチを使うと、スロットルワイヤーガイドを無理なく調整することができます。

3. スロットルワイヤーガイドのボルトを確実に締めます。
4. エンジンをかけ、スロットルレバーが正常に動作することを確認します。スロットルレバーを握るとブロワは高速運転となり、スロットルレバーを放すと低速運転となります。
5. 正しく調整できない場合は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

点火プラグの点検・調整・交換

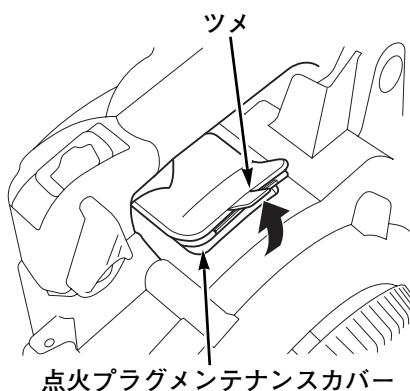
電極が汚れたり、電極のすき間が不適切だと、完全な火花が飛ばなくなり、エンジンの不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

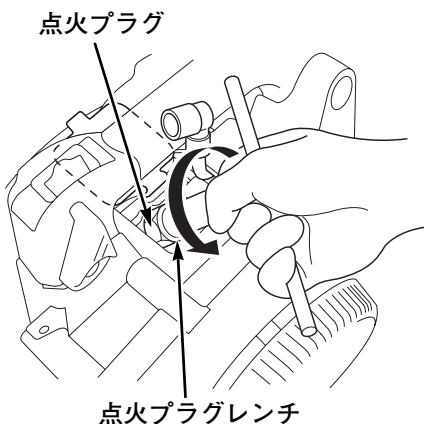
<清掃>

1. 点火プラグメンテナンスカバーのツメを引き上げて開きます。



点火プラグメンテナンスカバー

2. 点火プラグキャップを外し、同梱の点火プラグレンチで点火プラグを外します。
3. 点火プラグを清掃します。
プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげの販売店にお申しつけください。
プラグクリーナーがないときは、ワイヤーブラシで汚れを落としてください。

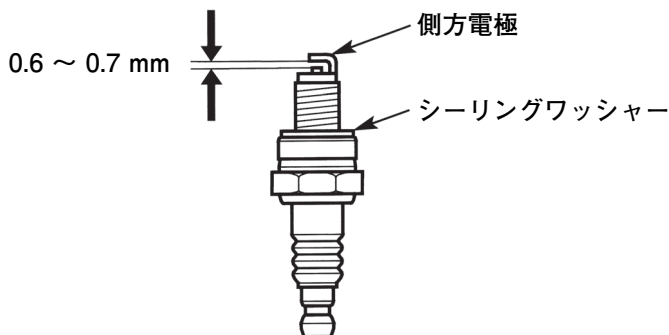


4. 点火プラグの火花すき間を調整します。

火花すき間：0.6 ～ 0.7 mm

<標準プラグ>

CMR5H (NGK)



5. シーリングワッシャーが破損していないことを確認します。

6. 点火プラグを取付けます。

取扱いのポイント

- ・故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。点火プラグの取付けは、ねじ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次に同梱の点火プラグレンチで確実に締込んでください。
- ・点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

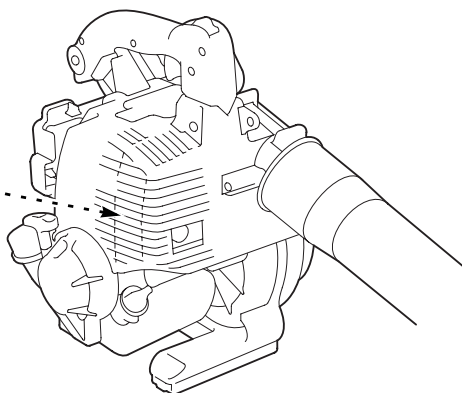
7. 点火プラグキャップを取付けます。

8. 点火プラグメンテナンスカバーを閉じます。

エンジン冷却フィンの点検

カバーの外から目視で冷却フィンを点検します。芝や葉っぱ、泥などが詰まっていたら、お買いあげいただいた販売店に相談し、本機を清掃に出してください。

エンジン冷却フィン
(カバー内)



長期間使用しないときのお手入れ

長期間使用しない場合、または作業を終了して長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- ・ 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠ 注意

- ・ エンジン停止直後は、エンジンが非常に熱くなっていますので、十分に冷えてから作業を行ってください。
- ・ 本機を平坦な場所に置き、誤ってエンジンがかからないように、点火プラグキャップを取外してください。

[1]表面全体を清掃します。

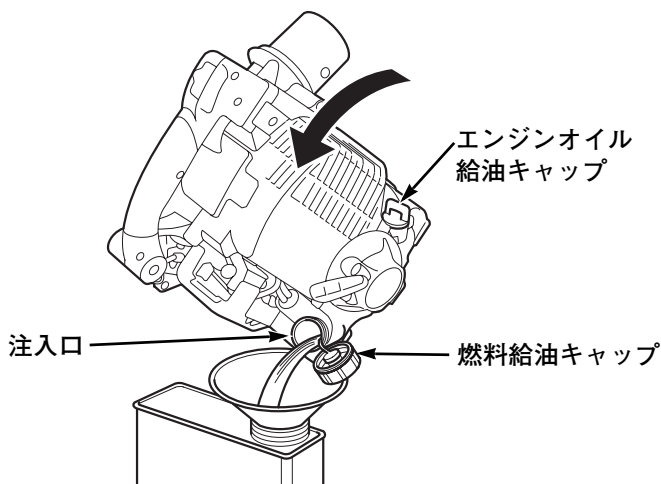
[2]燃料を抜きます。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- ・ 換気の良い場所で行ってください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

1. エンジンオイル給油キャップが確実に締まっていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを取外し、本機を注入口側に傾け、燃料を容器の中に流し入れます。

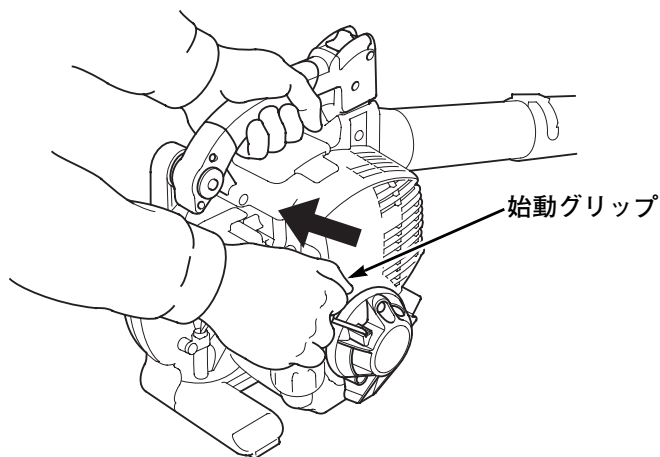


3. 燃料戻しチューブに残っている燃料がすべて燃料タンクに戻るまで、プライミングポンプを数回押します。



4. 再度本機を注入口側に傾け、燃料タンク内に残っている燃料を容器の中に流し入れます。
5. 燃料を完全に抜き切った後、燃料給油キャップを確実に締めます。

-
- [3]エンジンオイルを交換します。(32 頁参照)
- [4]エアクリーナーを清掃します。(34 頁参照)
- [5]点火プラグを取外し、燃焼室内に新しいエンジンオイルを数滴注ぎます。
- [6]エンジンを数回回転させてオイルをなじませ、点火プラグを取付けます。
- [7]始動グリップをゆっくりと引き、重くなったところで止めます。



- [8]ほこりが付着しないように、ブロワにカバーをかけます。

運搬する場合には

警告

ガソリンは非常に引火しやすく、ある条件下では爆発するおそれがあります。付近でタバコを吸ったり、炎や火花などを近づけないでください。

エンジンを停止後、15 分以上経過してエンジンが十分に冷めてから、乗り物に載せるようにしてください。エンジンや燃料系が熱くなっていると、ヤケドをしたり、他の物に引火する可能性があります。

運搬中に燃料がこぼれ出さないように、エンジンスイッチを停止にし、燃料給油キャップを確実に締めた状態で、本機をまっすぐに立てて固定してください。

運搬中にブロワがずれ落ちたり、何かに当たったりしないよう、ご注意ください。ブロワの上に重たいものを置かないでください。

修理を依頼する前の簡単な点検

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときは、むやみに分解しないでお買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

エンジンが始動しないときは、次の点を確認しましょう：

1. エンジンスイッチは運転になっていますか？
2. 燃料タンクに燃料は入っていますか？（15 頁参照）

警告

ガソリンは非常に引火しやすく、ある条件下では爆発するおそれがあります。付近でタバコを吸ったり、炎や火花などを近づけないでください。

3. 燃料はキャブレターに届いていますか？
プライミングポンプを数回押して確認してください。（23 頁参照）
4. チョークレバーの操作は正しいですか？（22 頁参照）
5. エンジンオイルはオイル注入口の口元まで入っていますか？（17 頁参照）
6. 点火プラグの状態は良好ですか？（39 頁参照）
7. 上記の項目を確認してもエンジンがかからない場合は、お買いあげいただいた販売店にブロワをお持ちください。

主要諸元

名称	HHB25
型式	UBAJ

フレーム

全長	本体のみ	335 mm
	本体とファンノズル、ミドルパイプの合計	965 mm
全幅		265 mm
全高		370 mm
乾燥質量（重量） （ファンノズル、ミドルパイプなし）		4.5 kg
全装備質量（重量）		5.2 kg
最大送風量（ファンノズル装着時）		9 m ³ /min
最大風速（ファンノズル装着時）		64 m/sec

エンジン

名称	GX25T
型式	GCALT
エンジンタイプ	強制空冷、4 ストローク、OHC 単気筒
排気量	25.0 cm ³
内径 × 行程	35.0×26.0 mm
エンジン最大出力／回転速度 （SAE J1349 に準拠*）	0.72 kW (1.0 PS)/7,000 rpm
エンジン最大トルク （SAE J1349 に準拠*）	1.0 N・m (0.10 kgf・m)/5,000 rpm
点火方式	トランジスタ式マグネット点火
オイル容量	0.08 L
燃料タンク容量	0.32 L
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
点火プラグ	CMR5H (NGK)

*: ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して、7,000 rpm（エンジン最大出力）と 5,000 rpm（エンジン最大トルク）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力は、この数値と変わることがあります。

完成機に搭載された状態での実出力値は、エンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

注意：諸元は、予告なく変更することがあります。

同梱部品の組み立てかた



警告

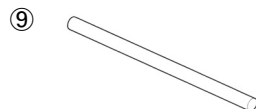
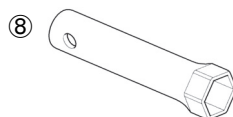
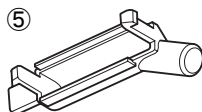
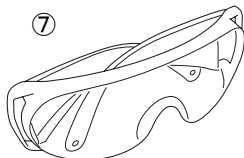
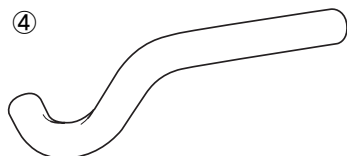
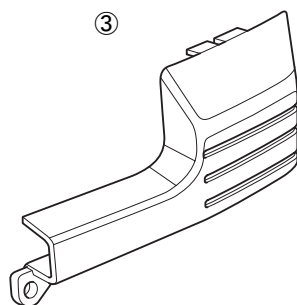
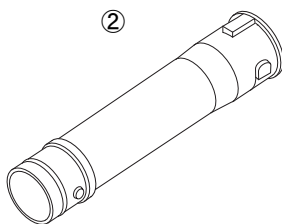
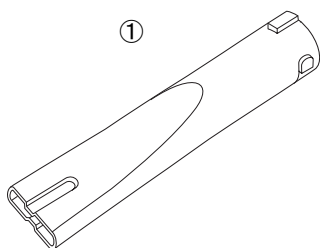
部品が正確に組み立てられていないと、大きなケガや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

組み立ての手順や注意事項には、必ず従ってください。

同梱部品リストで部品点数、および損傷の有無を確認してください。

同梱部品リスト

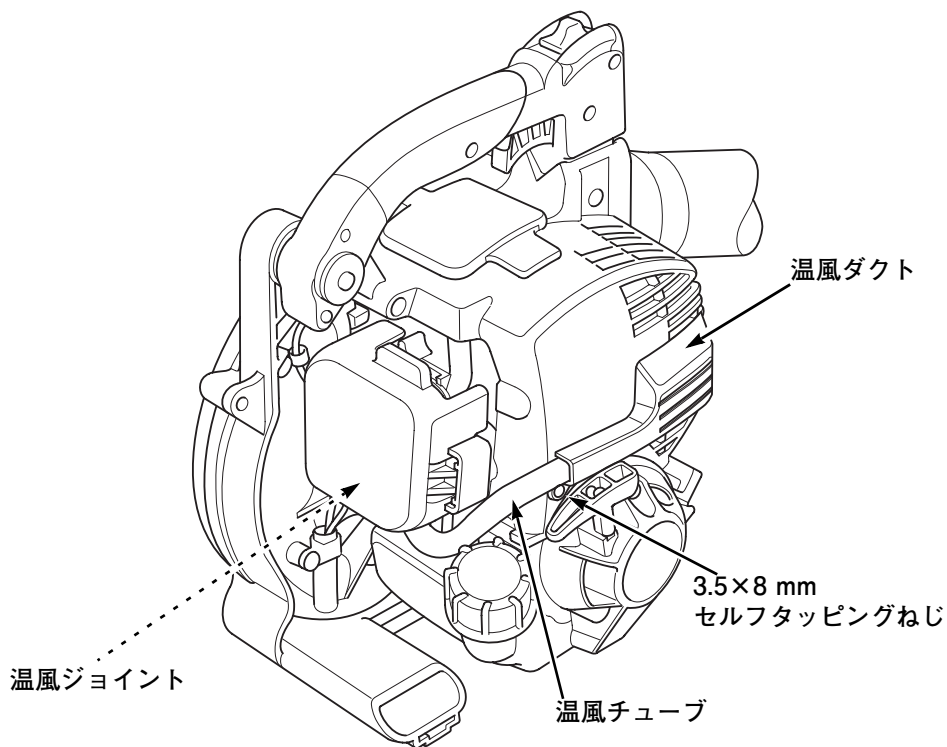
番号	部品名	個数
①	ファンノズル	1
②	ミドルパイプ	1
③	温風ダクト	1
④	温風チューブ	1
⑤	温風ジョイント	1
⑥	3.5×8 mm セルフタッピングねじ	1
⑦	保護メガネ	1
⑧	点火プラグレンチ	1
⑨	レンチハンドル	1



温風チューブキット

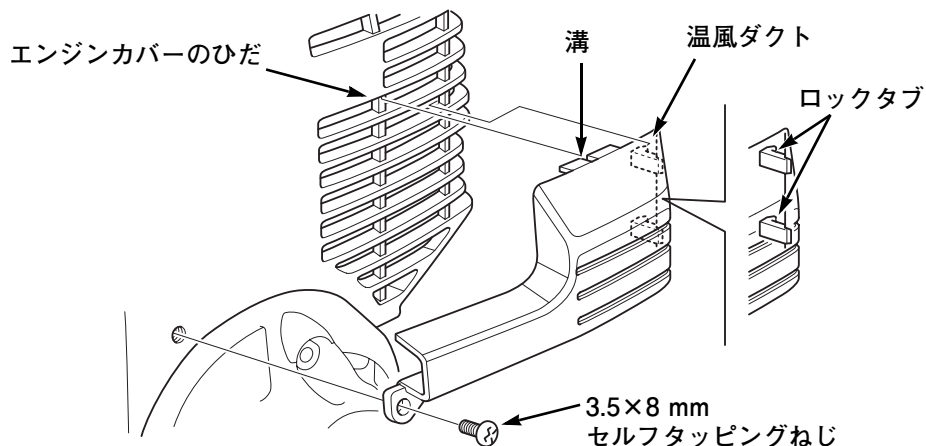
取扱いのポイント

外気温が 10℃未満のときは、温風チューブを取付けた状態で本機を使用してください。温風チューブを取付けずに使用すると、エンジン不調の原因となることがあります。

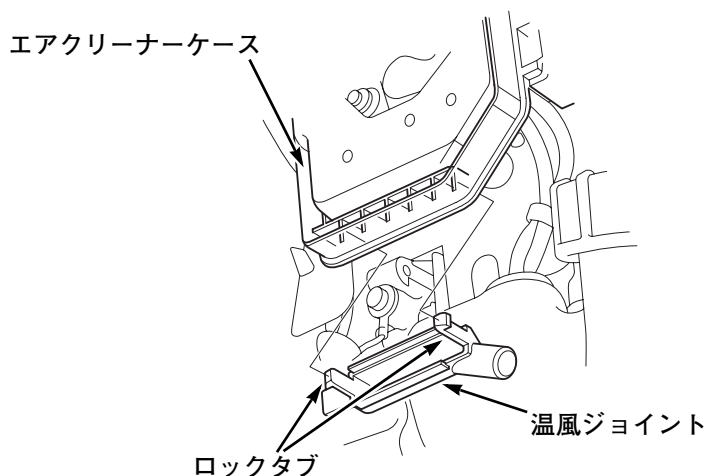


温風チューブキットの取付け方

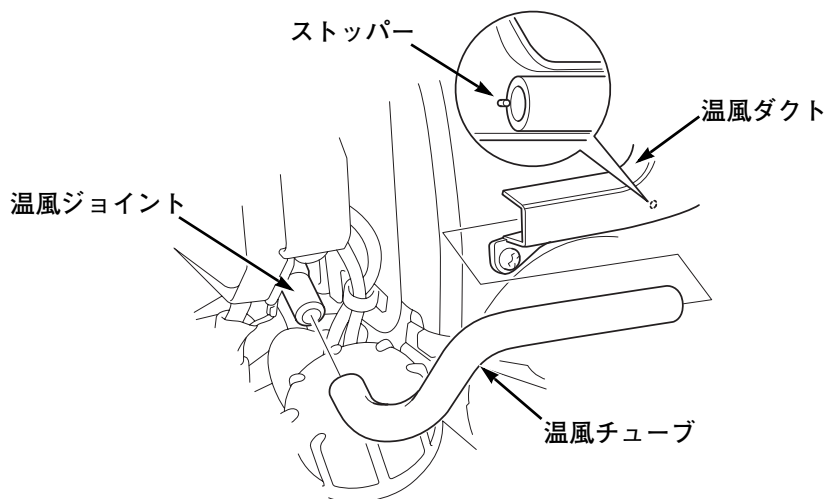
1. エンジンカバーのひだに溝とロックタブをはめ込み、エンジンカバーの外側に温風ダクトを装着します。
2. 3.5×8 mm のセルフタッピングねじで確実に締めます。



3. エアクリナーカバーを取外します。(19 頁参照)
4. エアクリナーケースの裏側から温風ジョイントを取付けます。
エアクリナーケースのひだの左から 2 つ目の穴と、右端の穴に温風ジョイントのロックタブがきちんとはまり、ロックされていることを確認してください。



-
5. 温風ダクトと温風ジョイントの間に温風チューブを取付けます。
温風ダクト側：チューブの先端がストッパーに当たるまで、温風チューブを差し込んでください。



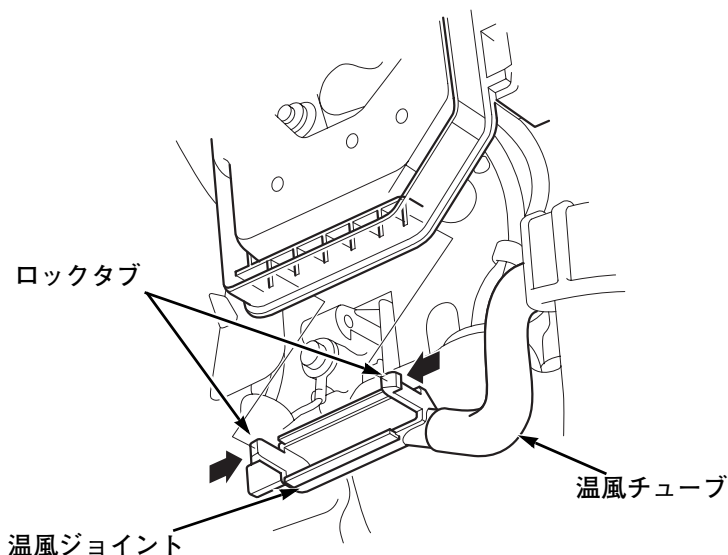
- 温風ジョイント側：温風ジョイントの根元まで温風チューブを差し込んでください。
6. エアクリーナーカバーを取付けます。

取扱いのポイント

- ・ 外気温が 10℃未満のときは、温風チューブを取付けた状態で本機を使用してください。温風チューブを取付けずに使用すると、エンジン不調の原因となることがあります。
- ・ 外気温が 10℃以上のときは、作業前に以下の手順で温風チューブを取外してください。温風チューブを取付けた状態で使用すると、エンジン不調の原因となることがあります。

温風チューブの取外しかた

1. エアクリーナーカバーを取外します。(19 頁参照)
2. 温風ダクトから温風チューブを引き抜きます。
3. 温風ジョイントのロックタブを押しながら、温風ジョイントを取外します。
4. 温風チューブと温風ジョイントをなくさないように、適切な場所に保管します。



5. エアクリーナーカバーを取付けます。

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通フリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0 1 2 0 - 1 1 2 0 1 0

受付時間 9:00 ～ 12:00 13:00 ～ 17:00
〒 351-0188 埼玉県和光市本町 8 - 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ①製品名、タイプ名
- ②ご購入年月日
- ③販売店名

